

「イスラエルの陣営の経験」

経験1

十二使徒定員会のジョージ・A・スミス長老（1817-1875年）は、イスラエルの陣営が道中で直面した状況を次のように回想しています。



「預言者ジョセフは、旅の間中ひどく疲れていました。必要物資の調達や陣営の管理に加え、行程の大半を徒歩に頼らざるを得なかったため、足には水ぶくれ、出血、靴擦れが絶えませんでした。それは暑い季節の中を、1日に25マイルから40マイル〔40キロから65キロ〕歩いた当然の結果でした。しかし旅の間、ジョセフは決して不平を漏らすこともつばやくこともありませんでした。一方で、陣営のほとんどの人は、爪先の靴擦れや足の水ぶくれ、長時間の行軍、食糧不足、粗末なパン、味の悪い〔コーンブレッド〕、〔腐った〕バター、悪臭を放つ蜂蜜、うじのわいたベーコンやチーズなどについて、ジョセフに不平を言いました。……シオンの陣営に属しているにもかかわらず、多くの人が祈らず、思慮に欠け、軽率で、不注意で、愚かで、悪魔に従い、それでもなおそのことに気づいていませんでした。ジョセフはわたしたちに忍耐強く接し、子供に教えるように教えなければなりません。しかし陣営の中には、決してつばやくせず、いつでも進んで指導者の望むとおりに行動する用意ができていても大勢いました。」（ジョージ・A・スミス、『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』287-288参照）

- 陣営の同じ状況下でこれほど対応が異なるのはなぜだと思いますか。
- 救い主に従うことが難しいときに、前向きな態度を保つのに役立つものは何ですか。

経験2

教義と聖約103：20とヒーバー・C・キンボール管長（1801-1868年）の次の言葉を読んでください。



「敵は暴力に訴えるという脅しの言葉を絶えず吐いていましたが、わたしたちは恐れることも、旅を続けるのを躊躇することもありませんでした。神がともにおられ、

天使たちが前を行ってくれたからです。小さな隊の信仰が揺らぐことはありませんでした。わたしたちは天使たちが同行してくれていたことを知っています。なぜならわたしたちは天使たちを見たからです。」（ヒーバー・C・キンボール、『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』288）

- あなたがイスラエルの陣営の一員だったとしたら、この祝福はあなたにどのような影響があったと思いますか。
- 今日、主に従う者が困難なことを行えるよう、主はどのような方法で助けてくださいますか。

経験3

イスラエルの陣営がジャクソン郡まであと1日というところで、武器を持った5人の男が近づいて来て、ほかに300人以上が陣営を攻撃するために向かっていると豪語しました。陣営のメンバーがどうすればいいか話し合っていると、預言者ジョセフ・スミスは「安らかにして主の救いを見ようではありませんか」と言いました。

20分後、激しい暴風雨が陣営のいる地を襲いました。近くの川は急激に水かさを増し、敵が川を渡って攻めて来るのを防ぎました。イスラエルの陣営の多くは、近くの小さな教会に避難しました。しばらくすると雨でびしょぬれになったジョセフ・スミスが教会に飛び込んできてこう叫びました。「この嵐は神が起こされたものです！」

嵐の翌朝、陣営はテントも物資も水浸しで散乱しているのを見つけましたが、何者かに攻撃された人はいませんでした。（『聖徒たち：末日におけるイエス・キリスト教会の物語』第1巻「『真理の旗』1815-1846年」203-204から引用して要約）

- あなたがイスラエルの陣営の一員だったとしたら、この経験は預言者ジョセフ・スミスに対するあなたの気持ちにどのような影響があったと思いますか。
- この経験は、あなたの人生での困難な時に、神が何をしてくださると教えてくれるでしょうか。